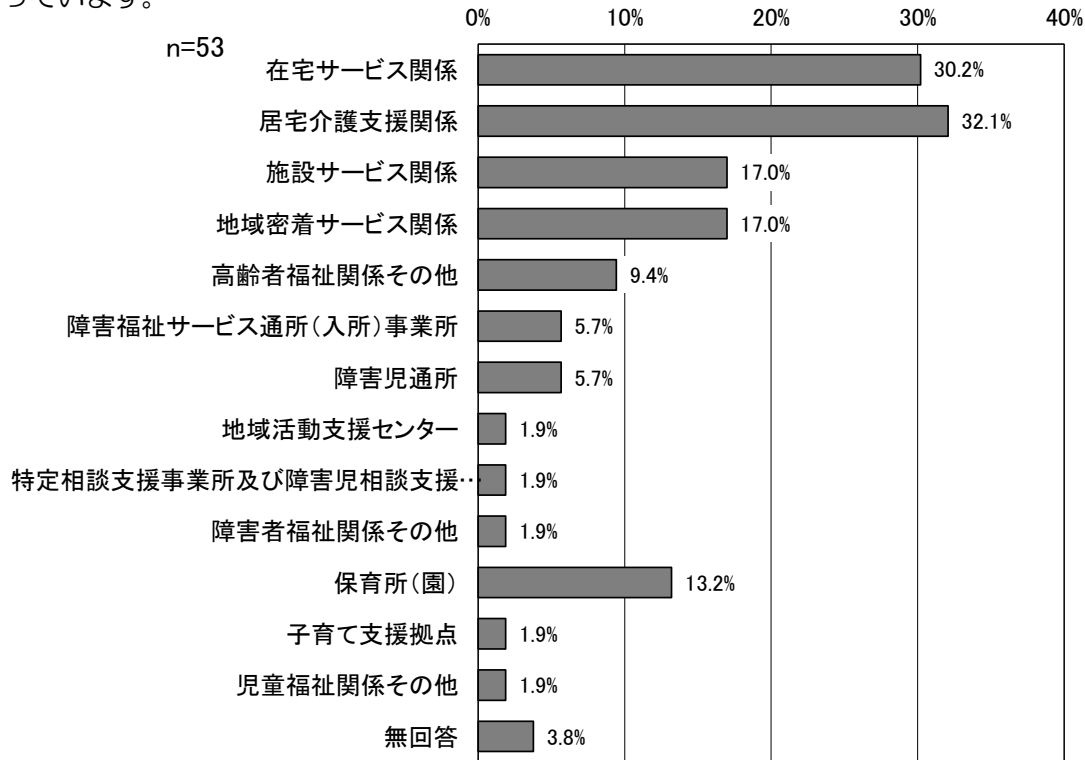

Ⅲ. 福祉関係事業所調査結果

1. 貴事業者について

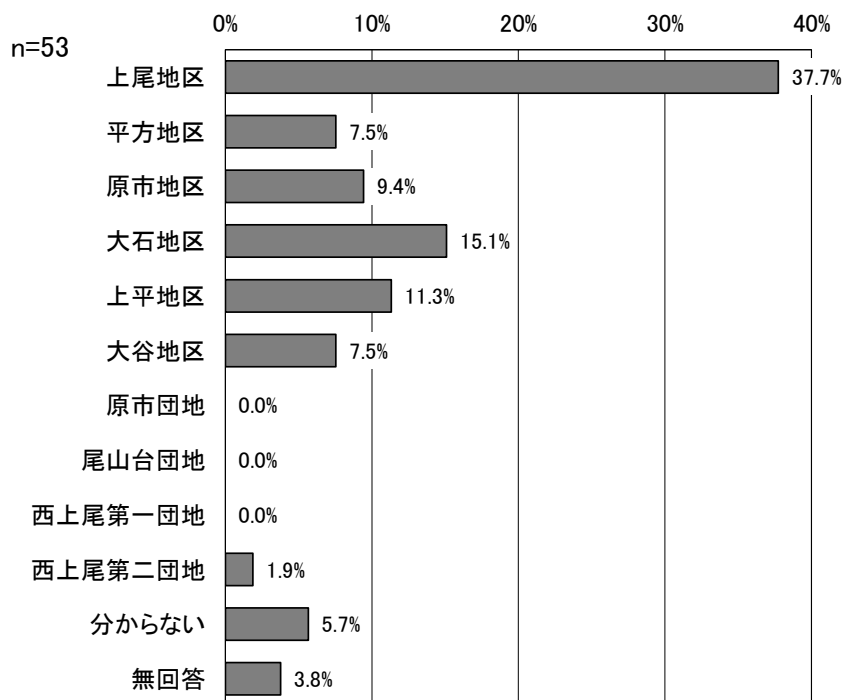
問1 貴事業者は、どの分野の業務を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

行っている業務の分野については、「居宅介護支援関係」が32.1%と最も高く、次いで「在宅サービス関係」が30.2%、「施設サービス関係」と「地域密着サービス関係」がそれぞれ17.0%となっています。



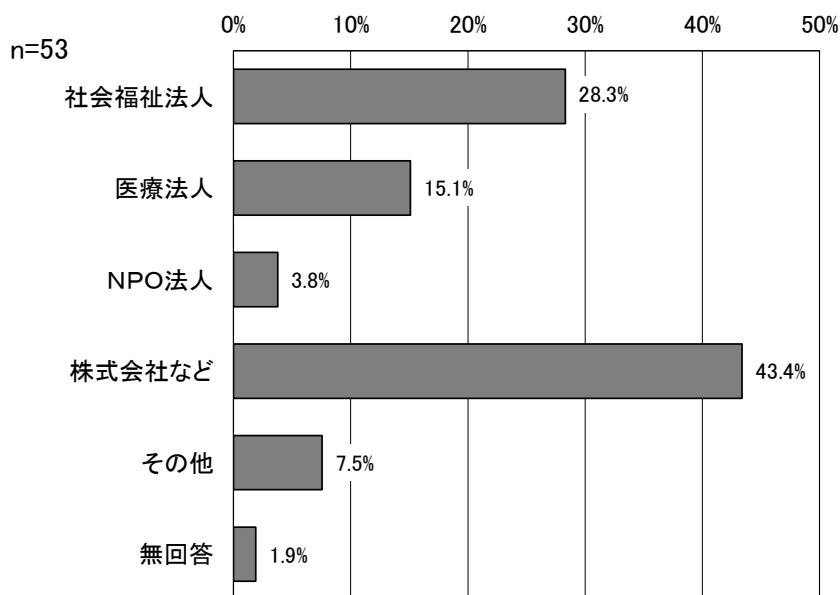
問2 貴事業者が所在する地区は次のどれですか。(ひとつだけ○)

事業者の所在地については、「上尾地区」が37.7%と最も高く、次いで「大石地区」が15.1%、「上平地区」が11.3%となっています。



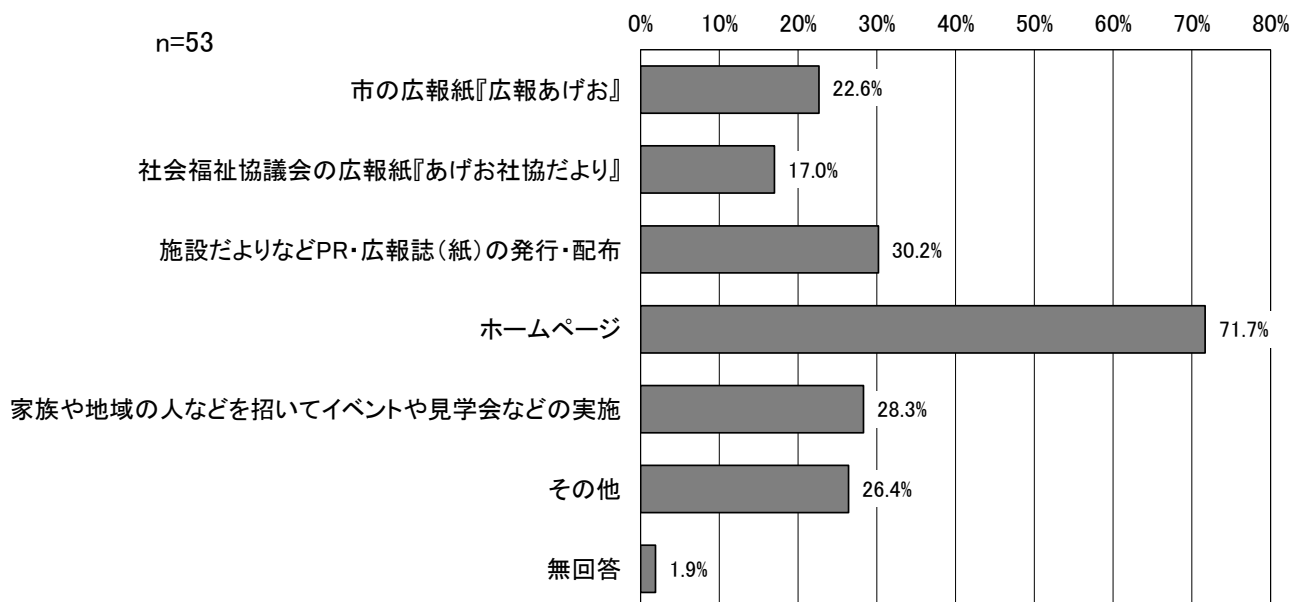
問3 貴事業者の運営形態はどれですか。(ひとつだけ○)

運営形態については、「株式会社など」が43.4%と最も高く、次いで「社会福祉法人」が28.3%、「医療法人」が15.1%となっています。



問4 貴事業者では、情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)

情報発信の方法については、「ホームページ」が71.7%と最も高く、次いで「施設だよりなどPR・広報誌（紙）の発行・配布」が30.2%、「家族や地域の人などを招いてイベントや見学会などの実施」が28.3%となっています。



2. 地域貢献、社会貢献や地域での活動について

問5 地域貢献、社会貢献や地域での活動で、現在実施している、実施予定である、今後必要だと思うことを具体的にご記入ください。(複数回答) 該当する項目について具体的にお書きください。

【子ども・子育て】

- 地域の子育て世代の育児や家庭に関する悩み等について、相談対応や援助を行っています。
- 子育て支援拠点、ベビーサロン
- 発達に障害のある、もしくは遅れがある子への支援
- ①地域の自治会館開放による子供たちの場作り
- 認知症についての教育
- 支援センターより、子育ての相談に応じている。
- 保育園との多世代交流
- 育児、就学児の悩み相談への対応
- 子育てに関する相談
- こども 110 番としての対応
- 経済的困窮家庭の子供を対象とした学習支援活動を行っている。
- 子供 110 番の家、登録済

【障がい（身体・知的・精神）】

- 地域におけるリハビリ訓練への対応（今後必要）
- 身体、知的障害者の雇用
- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- 共生社会の実現に向けて取り組んでいきたい。
- 認知症＋精神の対応
- 障害者の就労の場
- 発達障害児等に係る保護者からの相談対応
- 知的、精神障がい者を社内に受け入れる施設の数及び質の向上。
- ②2地域の自治会館解放による障害者と親の会等の集まりの場を作る。
- 関係機関への連絡調整
- 発達支援
- 乳幼児の発達に関する支援
- 相談支援（現在の生活、保護者の高齢、など）

【高齢・介護（認知症、見守り）】

- 高齢者様へのリハビリ及び機能低下予防。オレンジカフェ等に参加講演。
- 高齢者の介護相談、認知症、生活困窮、虐待、権利擁護、医療相談
- 居宅介護支援、高齢者等への見守り、相談
- 高齢者同士が自主的に集まるきっかけづくり
- 併設しているサービス付高齢者向け住宅では上尾市見守りネットワーク構成機関に加入
- 認知症カフェ、みのりクラブ等

- 認知症の予防と啓発（地域の専門職と協力し実施）。民生委員様の協力を得て地域の高齢者の見守りや支援を行っている。
- ボランティア、通所の介助
- 定期開催される地域会議（市役所、包括支援センター参加）から、施設の情報公開と認知症研修等実施。
- 介護相談窓口設置
- メインである活動ではあるが、今より一層強化。
- デイサービス見学会・説明会への参加、RUN 伴への参加
- コロナの活動がなくなってしまうため生活が不活発になっている。
- 高齢者の独居や老々介護の世帯が増えている。見守りサービスは必要。又、コロナの影響で入院患者が在宅療養に移行する方が多くなっている。医療依存度が高い方の自宅での過ごし方を検討する必要がある。
- 介護相談。今後必要だと思うこと、地域の子どもや、高齢者が気軽に遊んだり話し相手として自由に来れること。
- 訪問介護の現場では劣悪な環境で暮らしている方も多く、今後単身世帯も増える事から孤立を防ぎ、早めに介護サービスをにつなげる取り組みが必要。
- 認知症サポート事業への参加、通院同行介助が必要。
- 認知症のひとを専門的に介護できる施設の数及び質の向上
- ③地域の自治会館解放による高齢者のサロン等の集まりの場を作る。
- 在宅介護におけるサービスの充実。保険外でのサービスの取り組み
- 市との委託業務の運営
- 認知症徘徊高齢者の見守り訓練
- 認知症の方の訴えによる対応
- 介護保険に関する相談への対応。健康や病気（認知症含）の相談への対応。単身高齢者、高齢世帯調査、見守り。
- オレンジカフェ
- 「介護相談る一む」を開き、「認知症高齢者の心に寄り添って」「認知症なんて怖くない」の講演を行った。後で、介護者の悩みを出し合った。
- ヘルパー数の減少を防ぐ取り組み
- ガン末期の方や難病の方の受入を行い、生活を支えている。

【人権・家庭内暴力】

- 高齢介護課の担当者と連携し対応している。
- 上尾市立畔吉集会所運営委員会委員
- 成年後見制度、日常生活自立支援事業、DV 相談先の紹介、つなぎ
- 高齢者の人権擁護に関する相談への対応。関係機関の紹介。
- 虐待の早期発見・報告。地域の見守り強化
- 人権保育
- 家庭支援、人権保育

【ゴミ・住環境】

- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- 地域で行っている資源回収等には、毎月協力し参加している。
- 今年地区の役員で環境美化担当をやっていますが、アパート住人が自治会に入っていないく、ゴミの集積所が利用できない問題がありました。アパートの大家さんや5世帯以上の戸建ての造成地には、ゴミの集積所の設置を義務づける条例等あれば！！
- ふれあい収集の申請支援
- ふれあい収集の紹介、つなぎ
- 日常的にゴミ出しが困難な高齢者への相談への対応。

【地域活動・ボランティア活動】

- 元気アップに参加させて頂いてました。
- 体操教室、上尾市への体操映像協力
- 民生委員様の会議が開催される前に向き情報交換に努めるとともに顔の見える関係作りを行う。社協その他地域の会議に出席し、情報交換や顔の見える関係作りを努めている。
- 領家夏祭り実行委員会委員長から在園者と施設長招待（恵和園は子供みこし立ち寄り所）
- 毎月、地域の方々にボランティアにきていただき、開催していた。現在は、コロナ禍の影響で、園芸ボラのみになっている。
- 地域の中にある施設として、定着させていきたい。ボランティア活動に参加できる機会を持ちたい。
- ふれあいサロン（地域向けカルチャースクール）、コミュニティカフェの運営、地域のお祭りへの参加（どろいんきょ）
- 地域活動等への施設備品及び会場等の貸し出し
- リタイアして人がもっと積極的にボランティアへ参加できる環境
- 行政が担い手を集め、上記①②③を進めていく。
- 認知症高齢者の傾聴ボランティア（本人・家族）
- 高齢者に関わる事業のボランティア育成。コロナが落ち着いたらウェルカフェ（ウェルシアカフェ）開催
- 地域住民（65才以上）への介護予防や認知症予防の啓発活動。
- 老人介護施設への年長組による訪問（お楽しみ会での出し物を観ていただくために訪問）
- 高齢者・子供との交流の場
- 地域の子育て支援
- ウォーキング中にゴミ広い等を実施（予定）

【道路・公園・公共施設】

- 公園に向いて支援センターの活動を行っています。保健センターなどで行われる親子のつどいに参加しています。
- 地域活動等への施設設備及び備品の貸し出し

【健康・医療】

- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- 高齢・介護のランに記入しました。
- 健康相談
- 高齢者の健康増進のため、介護予防教室開催（コロナが落ち着いて高齢介護課の許可が下りた時）
- 健康や病気（認知症含）に関する相談への対応。

【就労・経済的な事項】

- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- ハローワークにて開催される企業案内への参加、求人者に情報公開している。
- 就職説明会への開催（福祉施設向け）があると良いと思います。
- くらしサポートの紹介、つなぎ
- 生活困窮に関する相談対応。
- 低所得家庭（学生）の学習場所の提供（昨年まで。感染症予防のため今年は中止）

【防災・防犯・交通安全】

- 地震、火災を想定した避難訓練を実施しています。講座で応急手当講座の実施を消防署にお願いしています。
- 月1回交通安全アドバイス制度実施し、埼玉県県民生活部防犯交通安全課へ結果を報告している。
- 災害時相互援助協定
- 消費生活センターの啓蒙活動の協力
- 地域住民等に相談窓口として必要な情報提供を行う。
- 登下校時の地域全体での見守りの強化

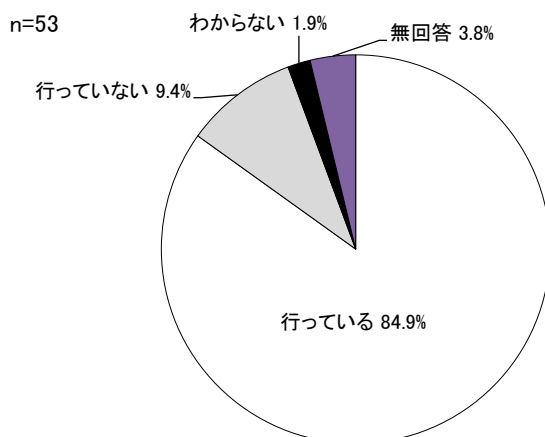
【福祉に関する情報提供】

- 介護者へのつどい
- 高齢者の方に介護サービス等の情報提供
- 行政やNPO等のチラシや配布物によって、他機関で利用できる福祉についての情報提供を行っております。
- わたしノートなどの活用を広める活動
- 相談あれば情報提供している。
- 地域に向けて情報の共有を計ること
- 施設来訪者への見学対応（必要に応じての福祉情報の提供）
- 関係機関との連絡調整
- 高齢者の福祉に関する情報提供は常時対応
- 65才以上の相談窓口として必要な情報提供を行う。
- NPO 法人福祉倶楽部ちゃのみの会員誌に情報提供している。ホームページも開いている。

3. 他の団体・組織及び地域との連携について

問6 現在、行政や他の団体・組織との間で情報交換や連携を行っていますか。(ひとつだけ)

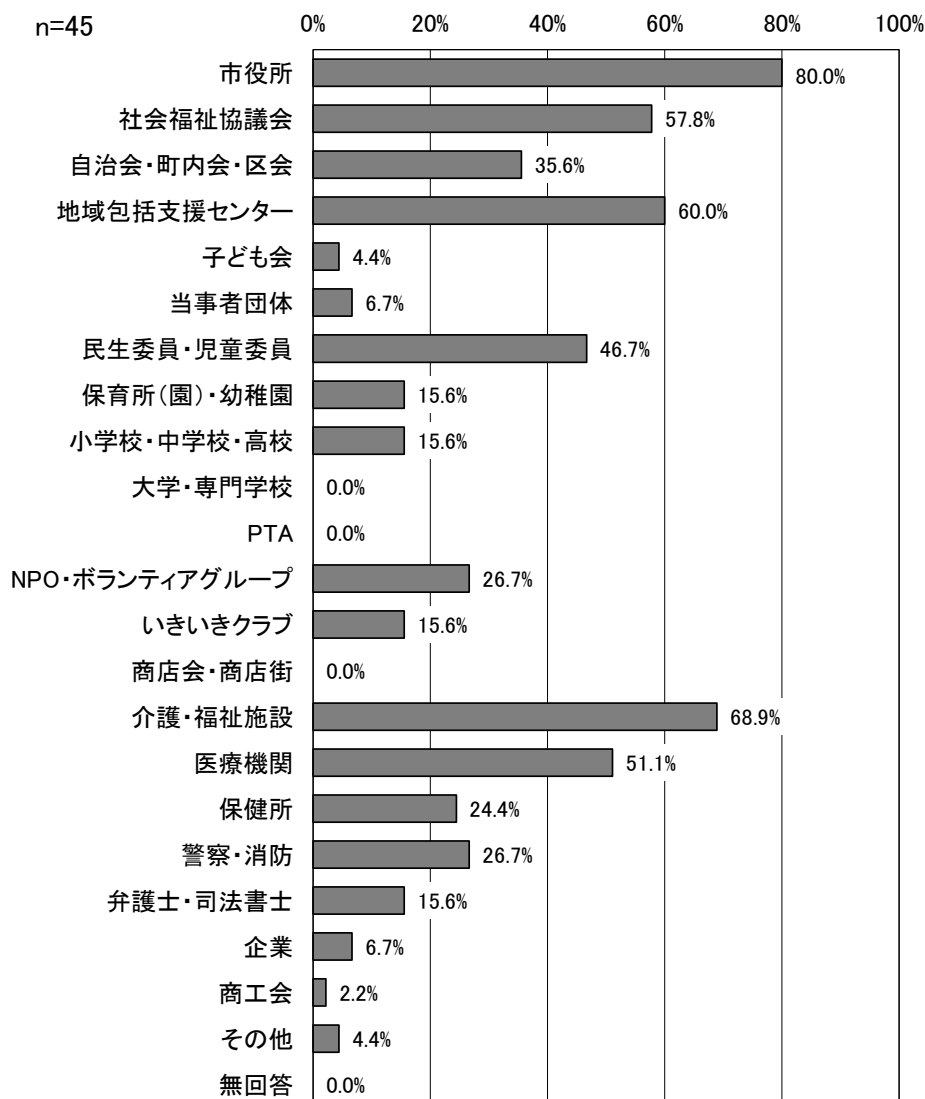
情報交換や連携の状況については、「行っている」が84.9%と最も高くなっています。



問6「1」に回答した事業者にかがいます

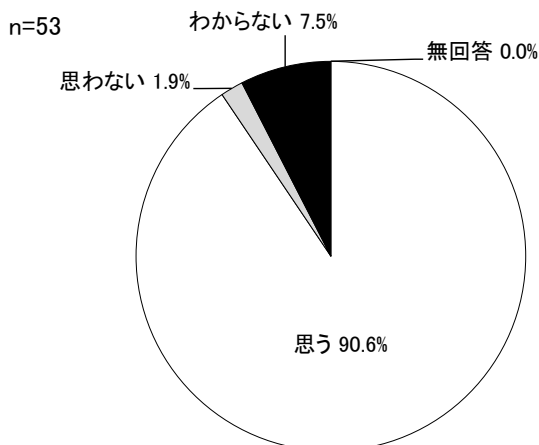
問6-1 情報交換や連携を行っている団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

情報交換や連携を行っている団体・組織については、「市役所」が80.0%と最も高く、次いで「介護・福祉施設」が68.9%、「地域包括支援センター」が60.0%となっています。



問7 今後、行政や他の団体・組織との間で情報交換や連携を強めたいと思いますか。(ひとつだけ○)

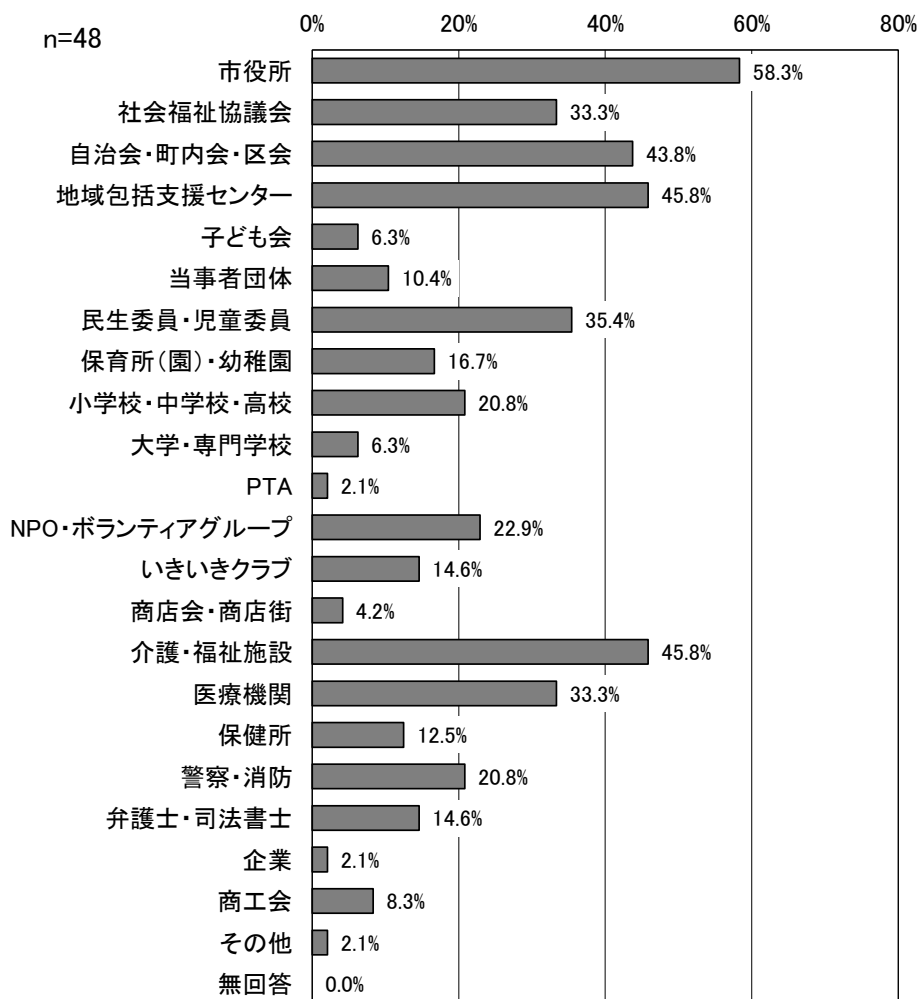
情報交換や連携強化の今後の意向については、「思う」が90.6%と最も高くなっています。



問7で「1」に回答した事業者にかがいます

問7-1 特に情報交換や連携を強めたい団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

情報交換や連携を強めたい団体・組織については、「市役所」が58.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」と「介護・福祉施設」がそれぞれ45.8%、「自治会・町内会・区会」が43.8%となっています。



問8 最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例がありますか。(具体的に記入)

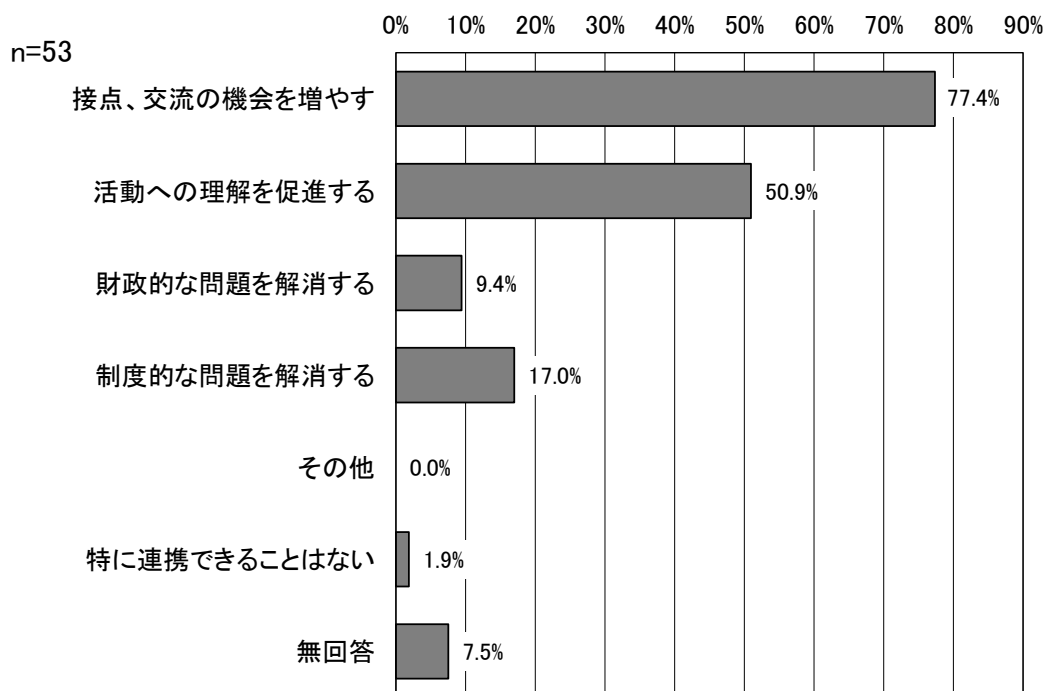
問8-1 問8で書かれた問題・事例に対して、他で同様な問題がおこった場合に、貴事業者として協力できることがありましたらお書きください。(具体的に記入)

- 80代の認知症の母親、60代の精神疾患の息子との2人暮らし。双方、サービス、専門病院への受診等すべて拒否。
【8-1 協力できること】関わった関係機関の情報提供。
- 簡単なお金の管理、コロナにより外出控え、契約手続きなど…。
【8-1 協力できること】家族との協力関係の構築、ボランティア。
- 身寄りのない方や近所に家族のいない方の入院時の受入。
【8-1 協力できること】病院からケアマネケアマネの付添いや入院時のサインを求められるが、責任を持つことができないため困ってしまう。市役所として、具体的な対応方法を示してもらえれば、それに協力したい。
- 利用者さんが、他に使いたいサービスが利用出来ず、困っている(サービスの数が少ない)
【8-1 協力できること】情報の提供。
- 通所リハや局所介護における卒業はなかなか難しい。卒業後の受け皿の拡充が、必要と考える。
【8-1 協力できること】現在コロナ感染拡大防止の為休止はしているが、地域での体操教室を行っている。さらなる地域貢献を行いたい。
- 高齢者運転免許証の自主返納がすすめられているが、受診や買い物などの移動手段が課題になってくるのではないのでしょうか。
【8-1 協力できること】送迎のある病院、医院や配食サービスなど、地域の社会資源についてご紹介する。
- 小規模多機能での支援には、ほかの通所介護、訪問介護、ショートステイの利用の様に、特に決まりが少ない中、本人の自立支援に向けてプラン作りを行っているが、ロングのショートになりすぎたり、訪問が一日がかりになったりと、人員が足りてない中、頭を痛める。
【8-1 協力できること】人員の補填があれば、協力は可能。
- 移動手段が確保できず、能力がないのに車の運転をしている現実がある。免許を返納したが、結局ひきこもりになっている。
■当人の拒否によってサービスが受けられないケースが多くあります。介護に対してマイナスなイメージを持っていることが多いです。
【8-1 協力できること】当事業所では、個人のレベルに応じたサービスをご用意しています。11月オープンのソフトムハフルールでは、比較的自立度が高い方向けの施設で、若々しく明るい雰囲気、抵抗感がないように配慮されています。
- ペットの老犬を子どもと思い、認知介護の状態であるが、施設入所が出来ない。家族4人で暮らしているが、自宅の衛生面で問題がある(汚れ、虫、散らかり)。閉じこもり、何もしようとしなない。
【8-1 協力できること】いずれも本人や家族の意思があり、制度があっても活用できないと思う。

- 自分の病状について理解が無く、支援者が車の運転を止めるように言ってもがんとして聞き入れなく、自分の足だからと言って、買物や銀行に車で行っている。病名として、糖尿病腎症、慢性腎不全で人工透析を受けている。
【8-1 協力できること】運転を止めるように言っても、本人の意識が変わらないと限界があり難しい。
- 高齢者の病院受診方法。
- ゴミ屋敷と化したお家の片付け。介護保険サービスのヘルパーでは対応不可。業者に片付けを依頼しても、金額的に高く支払いが不安なケース。
- 認知症ではないが、金銭管理ができず、生活困窮している。周囲はさまざまな理由から心配しているが、本人が支援を希望しない。
【8-1 協力できること】必要と思われる関係機関へつなげる。情報提供。
- 障害者サービス利用が65歳になり、介護保険制度に移行になった時、今までかかわっていた行政が、手を引いてしまったように感じられた。どこかがリードして、協力支援体制を築いていけたらよいのと思います。
【8-1 協力できること】地域ケア会議の下部ケア会議等の参加はやっていきたい。（困難事例検討会など）
- 父親と1人暮らしの男性、本人は生活介護支援事業所を利用したいと思っているが、父親の体調不良により送迎が難しいため、現在は利用出来ていない。
【8-1 協力できること】対応は難しい。（時間調整、職員及び公用車の数、万が一の場合のことなど）
- 上尾市役所（高齢介護課）（市民課）担当者様にご協力して頂きとても感謝しております。
- 昨年度、不明熱で長期間お休みいただいた行動障害の有る利用者がいました。通院先がなかなか見つからず、検査の実施が出来ず困ってしまうことがありました。
【8-1 協力できること】保護者だけでは通院が難しい場合には、通院同行も状況によっては対応します。また病院の情報等を得るために併設している相談支援事業所につなぐことも可能です。
- 予防の方の受診同行。

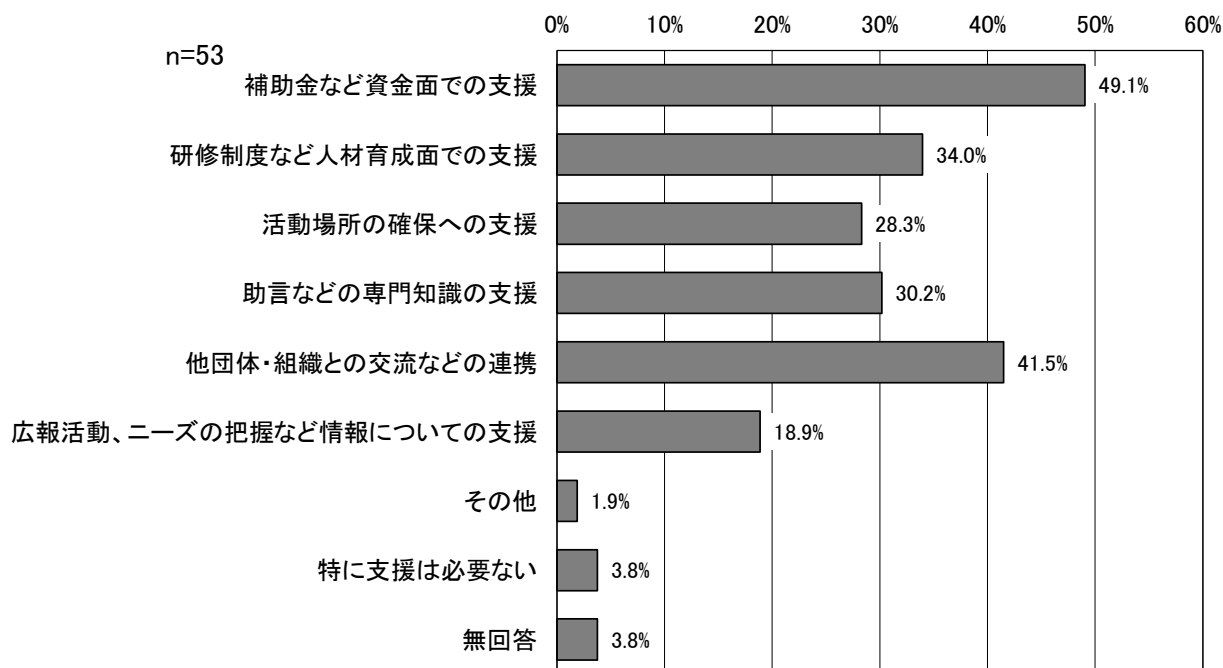
問9 他の団体・組織と連携・協働関係を築く際、連携できることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

他の団体・組織と連携・協働関係を築く際、連携できることについては、「接点、交流の機会を増やす」が77.4%と最も高く、次いで「活動への理解を促進する」が50.9%、「制度的な問題を解消する」が17.0%となっています。



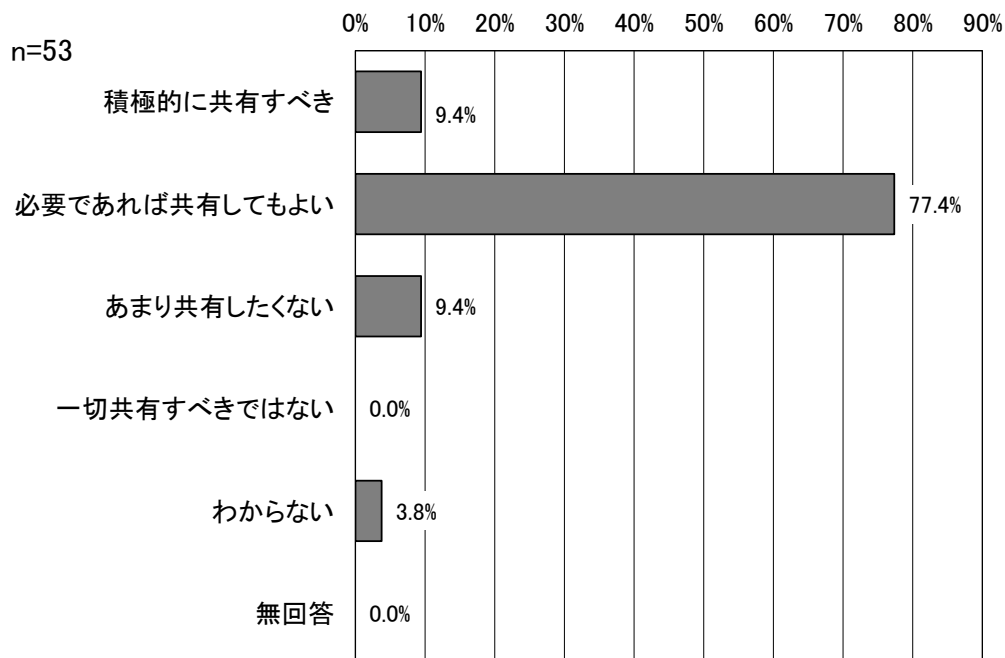
問10 貴事業者が地域福祉活動を推進するうえで必要とする支援はありますか。（あてはまるものすべてに○）

地域福祉活動を推進するうえで必要とする支援については、「補助金など資金面での支援」が49.1%と最も高く、次いで「他団体・組織との交流などの連携」が41.5%、「研修制度など人材育成面での支援」が34.0%となっています。



問 11 貴事業者は、地域での支え合い活動の推進のために、自治会などの支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(ひとつだけ〇)

必要な個人情報を共有に対する考えについては、「必要であれば共有してもよい」が77.4%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」と「あまり共有したくない」がそれぞれ9.4%となっています。



4. 新型コロナウイルス問題について

問 12 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴事業者の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

- 色々なニュースなどで、利用者様が不安感を増し、人との接点を少なくしている。DS 利用が減る。家にとじこもる。
- コロナ感染拡大防止に伴い、介護予防事業のあり方を検討しているが、色々な配慮が必要となり苦慮している。外出の自粛により、転倒、うつ傾向が顕著である。→介護保険申請が増えた。
- 新型コロナのため、新規受入のできるデイや訪問介護事業所が多く困っている。特に退院時は、サービス事業所が1～2週間の受入停止とするケースが多い。しかたがないと思う一方で、何らかの支援は絶対に必要なので対策してほしい。
- 物資の調達が困難でした。開所にあたり、必要な消毒液や使いすての手袋、非接触体温計を確保するのに苦労しました。開所する際の安全対策や対応について、答えのないなか、正しい情報を得ていくのも大変でした。
- 介護予防事業がストップしており、再開の目途が立たないことに対する対応策を、住民からせかされること。市が運営するものに対しては、謝罪しかできず心苦しい。
- 感染症対策として備品不足の問題（消毒液など）。休校により、長期間の支援をする為の人材確保や在宅支援等の新たな支援が加わった事による混乱。請求手続きでの追加作業。市町村により認識の違いが大きかった。
- 自粛ムードも高まる中、入居されている利用者のご家族様や他の来訪者様には、ご無理やご面倒をお掛けして居ります。医療機関同様、介護施設もそこで働くスタッフも、休む訳にはいかないのが現状です。幸いにして現時点で感染者は出ておりませんが、油断は出来ない状況は続いております。万が一、クラスターが発生した場合でも、それに対するリスク管理を見直し、落ち着いて適確な判断の基、スタッフ全員が行動出来る様に備える事が大きな課題と思われれます。
- 熱のある利用者様への対応。熱がある場合は受け入れしていないが、再開する場合のラインマニュアル整備をしたが、ご家族様の要望等による課題もあった。ご家族様に熱があった方がいたが施設は知らなかった等。
- アルコール、手袋、マスク購入不可。配布もできなかった。
- アップー元気体操中止の周知の際、参加者全員に電話で連絡をした。会場に貼り紙をし、当日サポーターさんや包括が立ち来場した方に中止である事をお知らせした。
- マスク、消毒液の配布を受けたので問題はない。
- 利用者がコロナ感染を心配して、来ないケースが見えるところ以外でもあり、利用者数を減らしていると思います。
- 現在入居している全お客様及び職員の体温測定、体調管理行い、必要に応じて、本社へ連絡している。各カ所の消毒、マスク徹底、リビング、相談室等に飛沫予防パーテーションの設置。
- 発熱の場合、会社はお客様の利用は休みと判断だが、家族はただのカゼですからなど、コロナでは無いと言われ、利用させてほしいと希望される。病院に電話しても、熱があるなら来ないでほしいとみてもらえないなど、みえないウイルスに怯えています。
- 職員や利用者さんではないが、その関係者が感染の場合の対応に苦慮。保健所に確認すると、明確な答えがなく、やむなく2週間自宅待機をしてもらったが、今後もあり得ること。検査を行ってもらえず、不安な日を過ごした。

- 施設入所者の家族面会の制限。(アクリル板など物品準備、段階的な面会制限解除) 地域活動への参加活動自粛。(カルチャースクール中止を余儀なくされた)
- 予防事業がストップしてしまった事により、楽しみとしていた活動、交流の場がなくなった。助け合いや見守りの団体が活動を中止したため、介護保険で対応したり対応が困難になっている人が多くいた。→訪問サービスが特に困った。
- 衛生用品の不足(使い捨てグローブ) ※以前マスクが不足しましたが、上尾市さんより定期的に配布していただき、とても助かっています。万が一、感染症が発生し営業停止(一時的な)となった際、その期間のご利用者様の受け皿の確保が課題です。特に独居(身内不在や遠方に住まれている方) 世帯への対応。
- 緊急で訪問した際に、感染予防が困難だった。(マスクなど物品が不足)
- マスクや手袋の購入が、困難になった事が苦労した点です。
- イベントの中止によって、利用者さんの工賃維持施設内での行事の中止によって、利用者さんの楽しみが減ってしまった事。
- 4月~6月中旬迄完全休業。その間の補助金による人件費の支払い、稼働日数の確保はどうなるのか等心配だった。
- 防疫備品が手に入りづらかったこと。現在は、ディスボグローブが値上がりし、又、手に入りづらい。面会者によっては、事業所に入ってはいけないことを理解できていない方がいた。
- マスク、グローブ等の衛生用品の入手困難。価格高騰。
- マスクが着用出来ない利用者がいたり、建物内に多くの利用者がいたり、換気や消毒等対策は行っているが、3密の回避が難しい状況にある。また、感染拡大防止を図るために、事業所の主な行事を中止せざるを得なかった。企業の生産減少や各種イベント(外部)が中止となり、利用者へ支払っている工賃に大きな影響を受けている。
- 身近で起こった問題はありません。
- 発熱した場合(スタッフが)、人員の配置がむずかしいことがあった。マスクや手指用消毒など感染対策用の物資不足。
- 児童発達支援。代替サービスとして実施するオンライン、音声通話等での療育の限界→発達障害児等の場合、代替サービスの提供では双方向の理解が困難。ノンバーバルコミュニケーションの時間ができない。
- 利用者の減少に伴い、売り上げが減少し、経営が大変になって終息時期がみえるので、影響が長い。
- 利用者のサービス控えて、県の請求件数が下がった。
- 教室など人が集まったの開催が中止となっている。
- 集合型の介護予防教室やアッピー元気体操、その他、地域のサロン等が開催できない日々が長期化し、高齢者の体力低下、筋力低下、うつ傾向の高齢者が増加しているように思われる。包括に相談が入ってくるのは氷山の一角と思うが、具体的な人数は調査をしていないため、実際のところ不明。
- 入居者とご家族の面会が中止。外部のサービス利用、外部(業者)からの出入りの中止。
- 集合型での開催が困難なこと。
- マスク、消毒液、体温計の不足。家族から「(感染を恐れて)休みなさい」と言われたので、1か月の休みをとっていた。(3人ほど)

- コロナ濃厚接触者が職員の家族に出た場合、保育園では（偽陽性 30%だとしても）2 週間自宅での仕事となる。これが保育士であった場合、手薄になってしまうため、受け入れをつづけられるかが心配になった。
- 新しい生活様式、ソーシャルディスタンス等、コロナウイルス感染拡大防止に対する保護者の意識の差が大きく、対応に困ることがある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、園での行事内容の見直し・検討が続いている状況です。収束が見通せず、仕方ないことですが子供たちの活動面での経験不足など、心配な点があります。
- 感染防止のために、異年齢の交流が出来ない。（保育内容の変更、行事の内容変更など）
- 短期入所が、利用出来ないことがあった。施設探し全般が難しかった。
- 感染への不安から、自主的にお休みなさる方が増えた。感染対策は行っているものの、何をどこまで行えば良いのか不安に思うことがある。
- 2020 年4月頃に発熱があったご利用者様に対して、画像診断をしないと何も出来ないと保健所よりありました。実際は車イスに長い時間座ることが出来ない方になり、対応に困った事があります。画像診断後もPCR検査を受ける事が出来ませんでした。
- 非接触の面会（オンライン面会）や研修（オンライン研修）を導入しているが、安定したネット環境の整備や職員への使用方法の周知等が難しい。マスクやビニールガウン等、感染対策商品が手に入りづらくなった。ストックは常にしているが、次何が品薄になるか予測が難しい。
- ①送迎バスの運行について→3 密を避ける措置（一時的に自主送迎の依頼等） ②昼食について→3 密を避ける措置（前後で喫食） ③コロナ対策のBCPを作成 ④年間計画の実施判断及び見直し。

問 13 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。

- 正確な情報発信、衛生管理に必要な備品の供給。安心して、健康管理の実施が行える環境整備。
- PCR 検査を受けられる場所を明確にし、数を増やしてほしい。また、費用を無料にしてほしい。
- 密をひかえながら、行政の活動を少しずつ再開してほしい。活動がない事により活動量、体力低下の方が本当に増えている。
- マスクや消毒液を配布する予算を、もっと困っているケースや制度改善に利用して欲しい。マスクや消毒液ももちろんありがたいが、より困っている所に予算を使って欲しい。
- コロナ対応の補助金をいただけたことは大変助かりましたが、物資が不足していた時には、購入が難しかったので、物品の補助も協力していただけたら助かったと思います。
- 前代未聞の事態ですが、その都度対応してくださいました。ありがとうございます。これからも一緒に良い地域社会を築いていきましょう。
- 突然の休校などにより、こちらの営業時間や利用者の利用状況が、大きく変更せざるを得なかった中での特別な措置はありがたいが、詳細の情報発信や事務手続きの簡素化など、事業者の負担を減らして欲しい。
- 新たなウイルスである為、未知な部分が多い事は理解出来ますが、大手メディアを筆頭に、あまりにも情報が錯綜し、危機を煽り過ぎているのではないか、と思える事もあります。先日のケア会議では、外に出るのが恐くてコロナノイローゼになった家族も居るという話題も出ました。現実的に毎年流行するインフルエンザ死亡者数より少なく、罹患者も当面は高齢者のリスクを大きく報道しておりましたが、20~40代が多い等々…。早く正しい予防法を広める対策を講じて頂けたらと思います。
- 市からのマスクの配布等、大変助かっております。行政におかれましても、大変忙しく難題ばかりだと思えます。お互いのできる事をやり協力関係、信頼関係をこれまで以上に密にできればと思います。
- 安全対策の為、感染予防の消耗品の提供して欲しい。
- 短時間利用としたが、行政の方から具体的に指導をして欲しい。
- 基本的には、利用者減は介護保険請求でうわのせ請求制度があり、景気のおち込みについては、緊急包括支援事業で補助金請求ができ、市からもアルコールやマスクの支給を頂いているので、もうこれ以上はと思うところです。※うわのせ請求＝コロナ特例措置のことです。
- 補助金申請し、各居室へ陰圧システムの導入を少しでも早く設置して欲しい。施設でのクラスター防止の為。
- 検査を直ぐに行える体制を整えてほしい。
- 正しい情報の発信。
- 現在は、検査体制もその頃よりは整ってきてはいるが、簡単に通院出来、より早く見つけることができる様に医療体制を整えてほしい。それが予防につながり、感染増をおさえることができるのではと考える。
- 訪問型サービス事業所への支援、ヘルパーの養成、ヘルパーの派遣の支援。
- 万が一発生した際に、ご利用様の一時的な受け皿の確保に、ご協力いただきたいです。
- 行政には、適宜相談しているので問題ありません。

- コロナウイルスが未だ収まらないので、追加で補助金など出して頂ければたすかります。PCR 検査もして頂きたいです。
- 保健・医療の知識が少ない。もう少し、保健センター保健師を通じてでも知識を深めて、ネット上の情報で知り得た情報、アルコール含有率などにしても良く知り得てから、情報の発信をしてほしい。
- マスクや消毒液の配布ありがとうございました。
- 新型コロナウイルスの罹患者が、発生した際の法人を超えての協力体制（主に後方支援になるとおもうが）の構築が、出来ると良いと思います。（特にグループホームの協力体制）
- 自宅待機などになった場合、一人居宅のため、他の利用者さんで関係する書類や手続きも出来なくなってしまう為、時間に猶予が欲しいです。
- 感染対策マニュアルの整合性。新型コロナウイルスの感染対策と「高齢者施設における感染対策マニュアル」の整合性。
- PCR 検査を定期的に受けたい。
- 迅速な対応指示等。
- アップー元気体操や予防教室開催をしてほしいと、高齢者からご意見を頂くように変化してきた。非集合型で現在は対応しているが、コロナ収束の目途が立たないため、条件をつけての集合型開催も検討して頂きたい。例）会場の広さに応じて参加人数を決定する。当日の検温・マスク着用等。
- 現場のスタッフへの支援。
- 新しい生活様式に合わせた事業内容の提案。
- コロナ対策の補助金がいただけたが、物品の選択が厳しく、対象にならない物があることが残念であるので、現場が必要としている事をみきわめ、許可して頂きたい。
- 新型コロナが、上尾市でどのくらい発生しているのか、情報が得られない。（クラスターがあるのかどうか等危険区域の情報の発信がほしい。）
- 消毒液を発注しても、なかなか購入できずにいた時に、課の方で注文先を調べてお知らせして頂き助かりました。今後も連携を取り、速やかに園の安全対策が出来るようにと願います。
- 今でも情報等、支援も沢山いただいています。
- 居宅、短期入所などの施設一覧に、現在の状況（空きあり・なし等）を毎月更新したり、リストを作成して情報共有してほしい。各相談支援事業所で上記を確認するのは大変。
- 消毒液の品切れが続いた際に消毒液を支給して頂いたことは大変助かりました。
- 感染対策に必要な物品確保のご協力。
- ①上尾市内で発生した事例について、発生場所のマップ（発生順が分かるように）代表的な感染経路の事例を公表して頂きたい。 ②国の対応手順が変わった場合、上尾市の場合に置き換えて提示してもらいたい。 ③福祉施設内でクラスター発生時に、どのような協力が得られるのか提示してもらいたい。
- ①緊急事態宣言中、行政はテレワーク等を取り入れていたが、委託業務である包括に対するの提示がなかった。 ②濃厚接触者の可能性がある時や判定された時の対応マニュアルがなく曖昧になっている。

自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 速やかな正確な情報の共有を出来る連携の構築を進めてほしい。
- 外出支援の充実。
- 防犯、防災に対しては大きな不安があります。いざという時に弱者である利用者さんをどうやって助けられるか…が課題です。親身になって相談が出来て、実際に手を貸してくれるマンパワーを必要としています。
- 発達障害（アスペルガーなど）は生まれつき脳の発達に障害があるため、対人関係やコミュニケーションに問題を抱えたり、仕事や家事をうまくこなせなかったり、それにより社会から孤立してしまい閉じこもりになってしまったり、犯罪を犯してしまう原因にもなっていると、テレビや新聞で紹介されていました。LGBT など、社会に理解されず悩んでいる人は多くあると思います。そういう方達が、理解され社会に受け入れられるように、周知して行ってほしいと思います。
- 今年2月からのコロナ禍の影響もあり、今後は、介護施設としても今までとは違うサービスの見直しや、体調管理の徹底がもとめられてくると思う。必要に応じて、コロナウイルスの情報を地域でも情報共有する必要があると思う。
- 施設向けにマスクや消毒液の提供とても助かっています。心強く感じています。ありがとうございます。
- 少子高齢化が一段と進む中、働く人の少なさに頭を痛めます。人生100年時代、60才を過ぎてもお元気で働ける方々も多い中、ともに支えあっていけるよう、活躍の場の提供が必須と思います。今までの経験、新しいスキルを身につけて働けるよう、共に支えあい、助けあって生きるまちづくり。
- 家族の形や町内会など、地域社会の結びつきが減っている中、新しい形での人と人のコミュニケーションが必要だと思います。コミュニティで支え合うことで、将来的な社会保障費の抑制にもつながるので、取り組む必要性は大きいと思います。
- 通常時間外の対応。
- コロナで混乱の中、マスクの配布など、ご対応いただきありがとうございました。とても助かりました。今後も、どうぞよろしくお願い致します。
- 当計画のみならず「上尾市障害者支援計画」「自立支援協議会」等の充実、実現を期待します。
- 地域自治会の活性化とサロン等の場づくりが出来て、隣り近所、顔馴染みになれば良いです。
- 上尾市、原市、瓦葺に住まいの利用者より。生活の場がほとんど東大宮となっているため、買い物をする場所が遠い。高齢者の一人暮らしも増えているため、歩くことが困難となっており、今回プレミアム券発行も利用したいが、上尾市内となっており、使うこと、買い物などができず不要となる。上尾駅前の病院に行くことも不便。東大宮駅までタクシーにてJR上尾まで行くため、一人では病院に行かれない。との事など、お話されていました。
- 防災あげおがいつも聞きとりやすく、非常時に情報が得られない。
- 「誰もが住みやすいまちづくり」について、話し合うシンポジウム等を、数多く開いてほしい。

- まずは町内会、隣近所での声かけ、助け合いをもっと推進してほしい。特に町内会に入会していないアパート等の単身者、子育て世帯、高齢者など。軽度障害者の1人暮らしは隣近所の方や、民生委員の方に日々気にかけて頂くなどし、ご本人が困り事を発信出来なくても早期発見、解決出来るようにしていく。
- 「誰もが住みやすいまちづくり」には、多くの課、関係機関と住民が協働しないと目指せないと思う。関わるところが多いほど、情報が共有されにくく、実際は何がどうなっているのかがわからない。どの様な方法でも、情報の共有化が図れる仕組みが必要と思う。